

テーマについて

○ 令和6年度の検討テーマ：「観光」

サブテーマ：「観光消費をさらに本市経済に波及させるにはどうしたらよいか」

観光は様々な業種への経済波及効果があり、本市の基幹産業の一つといえる。経済波及効果を高めるためには、観光客に市内のサービスやモノを購入してもらうこと、市内に長く滞在してもらうことなど、交流人口を増やすことが重要であると考えます。

○ 産業港湾部（観光振興室）の関連事業 ※主な事業

① 教育旅行誘致促進事業費（R6 予算額：12,000千円）

◆ 事業内容

- ・ 道外の高等学校に教育旅行商品を販売する大手旅行代理店（5件）に対し補助金を交付
- ・ 教育旅行説明会相談会参加（東京、名古屋、大阪の予定） など

◆ 事業の目的

- ・ 道内外からの教育旅行誘致（小・中・高）のため

◆ 事業の効果

- ・ 学校及び旅行代理店において小樽を選択する動機付けが期待できる
- ・ 小樽への修学旅行が増加し宿泊施設及び観光施設の増収が期待できる
- ・ 児童生徒が個人旅行者としてリピーターとなり小樽への再訪が期待できる
- ・ 教育旅行はトップシーズン以外にも実施する傾向があり宿泊需要の平準化が期待できる

◆ 事業実施上の課題

- ・ 学校においては修学旅行等を1年以上前から計画しており、補助金効果（インセンティブ）の検証が難しい（単年度予算による制約）

② 観光マップ作成費補助金（R6 予算額：4,600千円）

◆ 事業内容

- ・ 令和7年度配布予定の観光マップを制作する観光協会に対し補助金を交付
（冊子版：日本語50万部、マップ版：日本語29万部、英語12万部、繁体・簡体・韓国各3万部）

◆ 事業の目的

- ・ 小樽観光協会が発行する観光マップ（無料）の制作費の一部を補助するため

◆ 事業の効果

- ・ 小樽観光の情報をコンパクトにまとめ観光客や旅行会社に利用されている
- ・ 観光客にとって小樽観光の道しるべとしての役割も大きい（旅ナカ）
- ・ 来樽前の動機付け（旅マエ）

◆ 事業実施上の課題

- ・ デジタル化や非接触が推奨される状況から紙媒体での発行数について検討

③ 観光誘致促進事業費補助金（R6 予算額：10,571千円）

◆ 事業内容

- ・ 以下事業を実施する観光協会に対し補助金を交付
- ・ 誘客促進事業（海外、国内、教育プロモーション）
- ・ 受入推進事業（観光客受入れ整備）
- ・ 課題対策事業（夜の観光振興、夜の魅力発信、冬季閑散期対策）
- ・ 情報発信事業（デジタルマーケティング）

◆ 事業の目的

- ・ 観光振興推進において中核的存在としての役割が求められる観光協会が、観光事業者等との調整や連携を図り、誘致宣伝、市民への観光理解の普及、ホスピタリティ向上などに取り組むことから、これら観光誘致促進の取組を支援するため

◆ 事業の効果

- ・ 本市の観光客（日帰・宿泊／道内・道外）及び観光消費額の増加が期待できる
- ・ 観光資源の掘起しや磨上げ、サービスの質の改善、時間消費型観光の推進、情報発信の充実が期待できる

◆ 事業実施上の課題

- ・ 定量的な指標等による事業の効果検証等

④ 観光案内所運営費交付金（R6 予算額：29,965千円）

◆ 事業内容

- ・ 市内の観光案内所3か所に人員配置
JR小樽駅（日本人観光案内2名、通訳1名）
浅草橋街園（日本人観光案内1名）
国際インフォメーションセンター（通訳3名）

◆ 事業の目的

- ・ JR小樽駅、浅草橋街園、国際インフォメーションセンターにおいて観光案内所を運営するため

◆ 事業の効果

- ・ 観光情報の提供により観光客の利便性向上、観光ホスピタリティと小樽観光のイメージアップが期待できる

◆ 事業実施上の課題

- ・ 人員の確保・育成（観光案内に係る知識向上、通訳）

⑤ 外国人観光客誘致広域連携事業費補助金（R6 予算額：5,100千円）

◆ 事業内容

- ・ 小樽観光に関する情報発信等（WEBサイト悠悠北海道）
- ・ 国際キャンペーンの開催（ランドオペレーター招請事業） など

◆ 事業の目的

- ・ 世界に小樽観光の魅力を発信し、訪日外国人観光客の誘致を推進するため、行政と経済団体で構成する小樽国際観光客誘致実行委員会に対し補助することを目的

◆ 事業の効果

- ・ 世界に小樽観光の魅力を発信することで、訪日外国人観光客の誘致促進が期待できる
- ・ インバウンド需要回復後、インセンティブ旅行に係る受入体制の強化が期待できる

◆ 事業実施上の課題

- ・ 具体的なターゲット設定や必要なデータ分析（必要なデータの選定）等

⑥ おもてなし推進事業費（R6 予算額：3, 518千円）

◆ 事業内容

小樽観光協会に外部専門家2名を派遣し以下の取組を支援

- ・ 勉強会（9回） おもてなし認証制度審査員の育成研修
おもてなし認証における審査業務支援
- ・ 覆面調査 おもてなし満足度調査（50社×1回）の実施
- ・ セミナー（3回） 審査フィードバックセミナー（参加事業者向け）
認証制度取得事業者向けセミナー（参加事業者向け）
次年度募集セミナー（新規参加事業者向け）
- ・ 啓蒙活動 観光協会や市のホームページ等による情報発信
認証制度参加事業者訪問・情報発信

◆ 事業の目的

- ・ 観光事業者の全市的なホスピタリティ（おもてなし）向上を図るため
- ・ 観光事業者（飲食店、お土産店、交通事業者等）の店舗等を訪問しホスピタリティ（おもてなし）の現状・課題を把握するための調査（覆面調査）を実施し、小樽版おもてなし認証制度の構築・運営に取り組む小樽観光協会を支援

◆ 事業の効果

- ・ 小樽市（観光事業者・市民）におけるホスピタリティマインドの向上が期待できる
- ・ 観光地小樽のファンを増やしリピーターを確実に獲得することができる
- ・ 小樽らしさを活かしたホスピタリティの表現、観光事業者・市民も取り組む継続的なホスピタリティ向上スキーム、小樽スタンダード（どこでも小樽はこれが徹底されている）の構築が期待できる

◆ 事業実施上の課題

- ・ 参加事業者の広まり
- ・ 制度自走に向けた体制づくりや運営資金等

⑦ 観光入込調査デジタル技術活用事業費（R6 予算額：2, 640千円）

◆ 事業内容

- ・ GPS人流データを活用し来訪者（国内・外国人）の調査を実施
- ・ 調査対象地 9エリア（中心部、祝津・高島・手宮、天狗山、築港、朝里川温泉、銭函・張碓、港、その他）
- ・ 調査項目 観光入込客数、観光入込客の居住地分布、来訪者時間帯分布等
観光入込客数の移動元移動先分布等

◆ 事業の目的

- ・ 本市観光入込客数調査における人流データの活用について検討

◆ 事業の効果

- ・ 人流ビッグデータを活用して動態等の把握を行うことで、従来の調査手法では導出困難な多様かつ精度の高い情報を入手し、効果的な来訪促進施策の企画立案等、各課題における施策検討に資する基礎調査を実施することができる。

◆ 事業実施上の課題

- ・ （令和6年度新規事業）

⑧ 雪あかりの路実行委員会補助金（R6 予算額：4, 500千円）

◆ 事業内容

- ・ 以下に取組む雪あかりの路実行委員会に対し補助金を交付
- ・ 例年、小樽運河、旧手宮線をメイン会場、天狗山を準メイン会場として、市内各会場において雪のオブジェに無数の幻想的なろうそくの炎を灯す。

◆ 事業の目的

- ・ 小樽の冬の観光振興を図る
- ・ 冬季閑散期対策による冬季観光の拡大と地域活性化（小樽の知名度向上、市内経済効果）

◆ 事業の効果

- ・ 小樽の冬の観光振興に寄与
- ・ 市民参加による地域意識の高まり
- ・ 市内まちづくり団体の小樽観光に取り組む交流の場

◆ 事業実施上の課題

- ・ イベント実施に係る必要経費（ポスター、ガイドブック、ろうそく、人件費等）の高騰

⑨ 日本遺産推進協議会補助金（R6 予算額：3, 000千円）

◆ 事業内容

- ・ インターネット、SNS を活用した PR
- ・ インバウンド向けの情報発信（英語パンフレット、英語ホームページ）
- ・ パネル展の開催
- ・ デジタルサイネージによる情報発信

◆ 事業の目的

- ・ 日本遺産（日本遺産候補地域）を活用した地域活性化

◆ 事業の効果

- ・ 日本遺産を通じた観光地の魅力アップ
- ・ 国内外の旅行者に小樽市の日本遺産の魅力を知ってもらう
- ・ 市民のシビックプライドの醸成

◆ 事業実施上の課題

- ・ 日本遺産候補地域である「北海道の心臓と呼ばれたまち・小樽」は今年度が評価年度であり、令和6年以内に本認定可否が発表される予定。本認定が決定すれば「炭鉄港」「北前船」と合わせて3つ目の日本遺産として積極的にプロモーションできるが、現状はまだその段階に無いことが課題。
- ・ また、認定後でなければ受けられない補助金が事業の大半を占めており、認定が確定しなければ有効な活動に取り組めない。

以上